原小だより

横浜市立原小学校
令和７年４月７日
４月号
http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/hara/

『春の日の花と輝く』

アイルランド民謡
作詞：Ｔ．ムーア
訳詞：堀内　敬三

１　春の日の花と輝く
うるわしき姿の
いつしかにあせてうつろう
世の冬は来るとも
わが心は変わる日なく
御身をば慕いて
愛はまだ緑色濃く
わが胸に生くべし

２　若き日の頬は清らに
わずらいの影なく
御身今あでにうるわし
されどおもあせても
わが心は変わる日なく
御身をば慕いて
ひまわりの場をば恋うごと
とこしえに思わん

※ご家庭でお子さんと一緒に口ずさんでいただきたい曲を毎号掲載しています。ご好評により、今後も続けます。校長も７年目。「また、この曲か。」もあるかも知れませんが。

多くの「出会い」を

校長　　蒲谷　猛

「人と出会ったおかげで、自分とも出会えた。」
詩人・谷川俊太郎の言葉です。いろいろな人と出会い、交流するなかでその人の個性に心を動かされ、自分のよいところやもっと成長したいところなど、自分自身を見つめ直すことができ、新たな一歩をまた踏み出すことができる、そんな意味ですね。

教師というのは実にすてきな職業です。だって、とても多くの「人との出会い」がありますから。私は、担任を２５年間しましたし、同時期にずっとマーチングバンドの指導もしていましたから、毎年学級の４０人、バンド新入部員のおよそ２０人と出会い続けてきました。それだけでも１５００人ぐらいの子どもたちとの出会いがあったことになります。教師は、子どもの心に働きかけることがタスクですけれど、それ以上に、出会った子どもたちの個性・魅力から、随分と私の心を豊かにしてもらったと実感しています。

一方、子ども視点で考えると、今でも気になるのが初任校での経験。教員になって初めての担任が３年。その後、４年、５年、６年と持ち上がりました。学年２学級でしたから、編制替えがあっても、２０人の子どもたちは、私と４年間過ごしたわけです。忘れがたい心のつながりができたと自負はしていますが、その２０人の子どもたちは、小学校６年間で３人の教員との出会いしかなかったことを考えると、「よかったのだろうか。」という思いが何十年経ってもどうしても拭いきれずにいます。

自分の経験はさておいても、感受性豊かな小学校期には、多くの教員と出会いかかわり合いながら、成長していってほしいと考えています。そんな想いから、昨年度よりさらに一歩踏み込んで「チーム担任制（複数担任制）」を推進していきます。〇年＊組では、第１週はＡ教諭が担任として子どもたちと一緒に過ごしますが、次の週にはＢ教諭が担任として生活するといった具合です。１年間で２人の担任と出会い、６年間では最大１２人と出会うという取組です。学校でのかかわり合いは、担任だけではないですから、さらに、多くの出会いを子どもたちに提供できます。

「すべての教職員で、すべての子どもたちの成長を支える」ことを通して、個の見とりと支援の工夫を重層的にするように努め、「明日も来たくなる学校」を目指してまいります。今年度も、本校教育活動へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。